

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多様な教育的ニーズに対応し、生徒一人ひとりに応じた教育活動を通して、「自由」と「責任」の真の意味を学びつつ「社会的自立心」を育む。生徒の心身の健やかな成長を支えるために学校と家庭、地域がよりよい関係を築き、魅力ある学校、地域から愛される学校をめざす。 1 規律・規範意識を持ち、豊かな心を育成する。 2 自己有用感を高めるとともに、個の違いを認め、お互いを尊重しあう精神を育成する。 3 生徒一人ひとりに応じた学びを通して、確かな知識や技能を育成する。 4 地域への貢献や連携を図り、地域社会に愛される学校づくりをめざす。
--

2 中期的目標

1 子どもが安心して成長できる安全な学校の実現 (1) 自尊感情の向上をめざし、自己有用感を高める。 ア 挨拶を基本とした礼儀・マナーの指導を通して、規律・規範意識を持たせて豊かな心を育む。 イ 集団生活の中で規範意識を育成し、生徒同士が違いを認め合って生活できるよう指導する。 ウ 人権感覚を養い、生徒会活動などを通して道徳心・社会性の育成に取り組む。 ※目標:生徒会行事への出席率を高卒編入生以外で 60%以上を維持するとともに生徒の肯定的回答率 90%以上を維持する。(R4 66.1%・97.5%、R5 58.1%・98.3%、R6 68.1%・99.3%) (2) 生徒たちが健やかに成長し、生涯にわたり健康な生活を営むことができるよう育成する。 ア 健康診断の結果を踏まえ、生涯にわたる健康管理のための正しい基本的な生活習慣を確立できるよう、自己管理意識を高める。 イ 基本的な生活習慣形成の一環として、生活に関するアンケートの見直しを行い、調査だけでなく改善に向けての取組を行う。 ウ 安全で安心な社会づくりへの参画を意識し、地域と連携して防災・避難訓練等を実施し緊急時に適切に行動できるように生徒と教員の防災対応能力の向上をめざす。 エ いじめやハラスメントなどの問題行動等について、継続的に取り組み、安全な学習環境の整備を進める。 オ 教職員および生徒の環境保全に対する意識や校内美化への意識の向上を図る。 ※目標:早期発見・早期対応に向けていじめに関するアンケートを年間2回以上実施する。(R4 3回、R5 3回、R6 3回) ※目標:学校教育自己診断「安全で安心な学校生活を送れている」の肯定的回答率 90%以上を維持する。(R4 98%、R5 92.3%、R6 96.6%) (3) キャリア教育・進路指導の充実を図り、学校生活や学びに対する目的意識の醸成を図る。 ア 種々の資格取得に挑戦することを通じて、自ら学ぶとする意欲や態度を育成する。 イ 生徒の一人ひとりの希望および適性に応じた進路実現に向けて、進路指導担当が中心となって生徒、担任、保護者との連携を図る。 ※目標:資格試験受験者数の合格・取得率 50%以上をめざす。(R4 76 名 75%、R5 57 名 47.4%、R6 15 名 57.7%) ※目標:学校紹介就職希望者の内定率 100%を維持する。(R4 100%、R5 100%、R6 100%) (4) 生徒の居場所づくりに向けた支援体制の充実を図る。 ア 生徒の成長を取り巻く環境や生徒自身の悩みが複雑化・多様化している中、養護教諭(健康教育担当)を中心に、教職員、SC 及び SSW 等の関係者が連携した教育相談体制づくりを図る。 イ 生徒の不安や悩みに対して SC と連携して生徒の「こころの健康」や「こころのケア」に取り組む。 ウ 全教職員が SC 及び SSW の役割や学校としての活用方針等を共通理解ができるよう、SC や SSW 等による教員研修会を実施する。 ※目標:SC や SSW による教員対象研修会を年2回以上実施し、参加した教員からのアンケート調査を実施し、肯定的回答率 90%以上を維持する。(R4 2回・85%、R5 2回・96%、R6 2回・95%) (5) 保護者や地域との連携を図るために、学校における情報発信力を高める。 ア 学校行事や生徒会行事などの学校生活の様子を学校ホームページに定期的に掲載することで、地域や保護者が学校への関心を高め、地域ぐるみで生徒を育む。 イ 各種便りの定期的な発行や授業参観日を設定し、保護者に子どもの学校生活の様子を知る機会を増やす。 ※目標:授業参観日を年2回設定する。(R4 1回、R5 1回、R6 2回) 2 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力の向上 (1) 「わかる授業」「魅力ある授業」をめざした授業づくりを進める。 ア 各教科において生徒の学習状況を把握し、基礎的・基本的な学習の学び直しができる授業を展開する。 イ 1人1台端末導入により、ICT 機器や視聴覚教材を活用した生徒にとってわかりやすい授業づくりを実践する。 ※目標:授業アンケートの項目「この授業の難易度は自分にとって適切である」「授業の内容に興味・関心をもつことができた」の肯定的回答率各 80%以上を維持する。(R4 83.5%・82.6%、R5 94.1%・90.2%、R6 93.4%・89.2%) (2) 課題解決能力および実践力を高める授業づくりを進める。 ア 生徒同士が学びあう協働学習を通じて書く力・話す力・発表する力を育成する。 イ ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を多く取り入れて、基礎学力の定着を図るとともに活用する力を育成する。 ウ 専門分野における技能競技会やコンクールに参加することで、実践的な技術を身につけて実社会で生き抜く力を養う。 ※目標:授業アンケートの項目「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」について、肯定的回答率 80%以上を維持する。(R4 83.6%、R5 93.0%、R6 93.2%) ※目標:技能競技会やコンクール等の大会に1回以上出場する。(R4 1回、R5 1回、R6 1回) (3) 学びの継続に向け OSAKA CYCLE の取組みを進め、学びへのアクセスを保証するための学習環境を整える。 ア コーディネーター等を中心とした教育相談委員会で現状の分析と課題把握、今後の方向性と課題解決対策の取組みを推進する。 イ 生徒の状況や保護者からの情報を収集し、アセスメントに基づいた支援対策についてケース会議で検討する。 ウ SC と連携・協働し支援の成果検証と改善点の検討を行い、生徒の学習環境を整える。 ※学校教育自己診断「この授業の難易度は自分にとって適切である」の肯定的回答の割合 85%以上を維持する。(R4 83.5%、R5 94.1%、R6 93.4%) 3 研修活動の活性化による教員の指導力、授業力の向上 ア 教員間の授業見学期間を設定することで、教員の指導力の向上とともに、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点に立った授業づくりを推進する。 イ 各教科において、授業アンケートを取り入れた PDCA サイクルによる授業改善を推進する。 ウ 情報図書担当が中心となって教員の指導力向上に向けた ICT に関わる校内研修会の充実を図る。 エ 各担当、各種委員会等が連携し、日本語指導を必要とする生徒を支援、指導する研修を実施する。 オ 校内の各種 ICT 機器の維持活用を図るとともに、情報リテラシー向上に向けた教職員研修を実施する。 カ 支援を要する生徒の教育的ニーズの把握と情報共有を図る。また、特別支援教育に対する教職員の理解を深める。 ※目標:授業アンケートの「先生は、よりよい授業をしようとする意欲や熱意をもっている」の肯定的回答率 90%以上を維持する。(R4 83.6%、R5 95.6%、R6 93.3%) 4 働き方改革の推進 ア 教職員の健康増進・維持のために、時間外勤務の縮減を図るため教職員への啓発と意識改革を図り、ストレスの軽減をめざす。 ※目標:健康増進・維持のために教員向け研修会を年1回以上実施する。(R4 0回、R5 0回、R6 0回) ※目標:ストレスチェック職場分析結果において、総合健康リスクの項目で 90 以下を維持する。(R4 89、R5 90、R6 84) イ グループウェア等を活用して校務運営の効率化を図り、週に一度の全校一斉定時退庁日を実施する。 ※目標:会議資料のデジタル保存化や全体におけるオンライン会議の実施時間割合 50%以上を維持する。(R4 50%、R5 50%、R6 60%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
Ⅰ 子どもが安心して成長できる安全な学校の実現	(1) 自尊感情の向上をめざし、自己有用感を高める ア 規律・規範意識を持たせて豊かな心を育む	ア ・教職員による登校時の校門指導を通じて、挨拶を基本とした礼儀、マナーが身につくように指導する。	ア ・教職員による生徒登校時の校門指導〔通常授業日に実施〕 ・全教職員が生徒指導に関する情報を共有し、日常の指導に活かすため、SSW 等が参加した生徒情報連絡会を年2回開催〔年2回〕	
	イ 生徒同士が違いを認め合って生活できる指導	イ ・集団生活の中で規範意識を育成し、生徒同士が違いを認め合って生活できるよう指導する。教職員が積極的に生徒に働きかけることで教師への信頼感を育むとともに、自己存在感や充実感を育む。	イ ・生徒会行事への出席率を高卒編入生以外で65％以上を維持するとともに生徒の肯定的回答率(学校行事等や教師への相談等) 90％以上〔68.1％・99.3％〕	
	ウ 人権感覚を養い、生徒会活動などを通して道徳心・社会性の育成	ウ ・人権感覚を養い、生徒会活動などを通して道徳心や社会性の育成に取り組む。 ・SNS 等に関わる生活安全講座を外部機関や企業と連携して実施し、指導する。 ・性教育に関する講座を実施する。	ウ ・人権に対する意識を高める講演会、研修会を年間各1回実施〔年間各1回〕 ・情報モラルに関わる安全教室および交通安全講習会を年間各1回実施〔年間各1回〕	
	(2) 生徒たちが健やかに成長し、生涯にわたり健康な生活を営むことができるよう育成 ア 基本的な生活習慣を確立できるよう、自己管理意識の向上	ア・健康診断の結果を踏まえ、生涯にわたる健康管理のための正しい基本的な生活習慣を確立できるよう、自己管理意識を高めるとともに、必要に応じて生徒に健康増進について呼びかける。	ア ・受診勧告が必要な生徒へ受診報告書を基に個別事後指導を年1回以上注意喚起〔新規〕	
	イ 基本的な生活習慣形成の一環とした生活改善に向けての取組	イ・基本的な生活習慣形成の一環として、生活に関するアンケートの見直しを行い、調査だけでなく改善に向けての取組を行う。 ・1月の全校集会で、薬物乱用防止に関する講座を実施、指導する。	イ ・生活に関するアンケートを取り入れた PDCA サイクルによる生活改善に向けて、保健だよりを年間6回以上発行するなど情報発信〔年間10回〕 ・年1回、外部機関と連携し、薬物乱用防止講座を実施するとともに、保健委員が啓発ポスターを作成し、教室に掲示〔年1回〕	

府立都島工業高等学校 定時制の課程

I 子どもが安心して成長できる安全な学校の実現	ウ 生徒と教員の防災対応能力の向上	ウ・防災・避難訓練を消防署や警察署と連携して実施し、緊急時に適切に行動できるよう指導する。	ウ ・ 防災・避難訓練を年2回以上実施する。[年2回]	
	エ いじめやハラスメントなどの問題行動等について、継続的な取組	エ・いじめやハラスメントなどの問題行動等について、継続的に取り組み、安全な学習環境の整備を進める。 ・あらゆる教育活動の機会を通じ、人権尊重の意識を高め、互いの違いを認め合える人間形成に取り組む。	エ ・ 学校教育自己診断を実施し、「安全で安心な学校生活を送れている」の肯定的回答率 90%以上[96.6%]	
	オ 環境保全に対する意識や校内美化への意識の向上	オ・特別美化清掃の徹底を図るとともに、日常の校内美化に対する意識を促す。 ・生徒会主催の「ECO プロジェクト」を実施する。	オ ・ 清掃活動を年 10 回実施し、美化活動を月1回以上実施[年 23 回] ・「ECO プロジェクト」実施後アンケートの肯定的回答率 80%以上	
	(3)キャリア教育・進路指導の充実を図り、学校生活や学びに対する目的意識の醸成			
	ア 資格取得の推奨	ア・卒業後の進路を意識しながら、資格取得に積極的に挑戦することを通じて、自ら学ぼうとする意欲や態度を育成する。	ア ・ 資格試験合格・取得率 50%以上 [57.7%] ・ 自己進路実現に向けた補習や資格取得のための補習に主体的に参加した生徒へのアンケート「補習に参加することで学ぶ意識や自己肯定感が向上した」に対する肯定的回答率 80%以上 [100%]	
	イ 生徒の一人ひとりの希望および適性に応じた進路実現	イ・生徒が「働きたい」と思える事業所への内定を得られるよう、一人ひとりの特性に応じた丁寧な進路指導を行う 。 ・外部人材による生徒の期待に沿った講演等のプログラムを実施することで、生徒のキャリア形成を促す。 ・社会人として自立を通じた自己実現に向けたキャリア教育を授業計画に取り入れる。	イ ・ 学校紹介就職希望者の内定率 100%を維持 [100%] ・ 学校紹介就職希望者の応募先企業への職場見学(過年度のインターンシップ等を含む)の参加率 100%[100%] ・ プログラム後のアンケートで、生徒満足度平均 80%以上[100 %] ・ CC と連携し、キャリア教育に取り組み、事後アンケートにおいて「キャリアイメージが具体化した」の項目の肯定的回答率 80%以上[3回・96.3%]	
	(4)生徒の居場所づくりに向けた支援体制の充実			
	ア 教職員、SC 及び SSW 等の関係者が連携した教育相談体制づくり	ア ・ 生徒の成長を取り巻く環境や生徒自身の悩みが複雑化・多様化している中、養護教諭を中心に、教職員、SC 及び SSW 等の関係者が連携した教育相談体制づくりを図る。	ア ・ 教職員、SC 及び SSW 等の関係者会議を年4回以上実施[15 回]	
	イ 生徒の「こころの健康」や「こころのケア」	イ ・ 生徒の不安や悩みに対して SC と連携して生徒の「こころの健康」や「こころのケア」について取り組むために保健だよりや SC 等による講演を実施する。	イ ・ 利用した生徒に対してアンケート調査を実施し、肯定的回答率 75%以上 [82.3%] ・ SC による、ストレスマネジメントを活用した予防	

府立都島工業高等学校 定時制の課程

Ⅰ 子どもが安心して成長できる安全な学校の実現	ウ SC、SSW の役割、学校としての活用方針等の共通理解 (5) 保護者や地域との連携を図るために、学校における情報発信力を高める	ウ ・ 全職員が SC、SSW の役割や、学校としての活用方針等を共通理解ができるように SC による教員研修会を実施する。 ア ・ 学校行事や生徒会行事などの学校生活の様子を学校 Web ページに定期的に掲載することで、地域や保護者が学校への関心を高め、地域ぐるみで生徒を育む。 イ・各種便りの定期的な発行や授業参観日を設定し、保護者に子どもの学校生活の様子を知る機会を増やす。 ウ・学校公式 SNS を利用し、学校における生徒の様子や取組について情報発信する。	教育に関する講話を年1回実施 [1回] ウ ・ SC・SSW 等による教員対象研修会を年2回以上実施[年2回] ア ・ 生徒会執行部が中心に生徒会行事について学校 Web ページ掲載内容を考え、年10回以上発信[11回] ・ 保護者と連携しながら生徒会が年1回以上地域活動等に取り組む[1回] ・ 各系列での特徴的な取り組みを学校 Web ページに2回以上掲載[機械系列 2回、電気系列 3 回、建築系列 2回、教養系列 2回] イ ・ 保健だより年間6回、図書館だよりを年間10回発行[10回、10回] ・ 授業参観日を年2回設定[2回] ウ ・ SNS を利用し、学校の紹介や授業の様子などを年25回以上発信[29回]	
	(1) 「わかる授業」「魅力ある授業」をめざした授業づくりを進める。 ア 基礎的・基本的な学習内容の学び直しができる授業の展開 イ ICT 機器や視聴覚教材を活用した生徒にとってわかりやすい授業づくり (2) 課題解決能力お	ア・各教科において生徒の学習状況を把握し、基礎的・基本的な学習の学び直しができる授業を展開する。 イ・1人1台端末導入により、ICT 機器や視聴覚教材を活用した「わかりやすい授業づくり」を実践する。 ・積極的に授業に参加し、「働くこと」の役割を理解して将来設計を考える姿勢を養うために、実習科目において実社会でも使える技術を習得する。	ア ・ 授業アンケート「この授業の進度や難易度は自分にとって適切である」の肯定的回答率 80%以上[93.4%] イ ・ 授業アンケート「授業に、興味・関心をもつことができたと感じている」の肯定的回答率 80%以上[89.3%] ・ 学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している。」の肯定的回答率 85%以上[96.6%・100%]	

2 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力の向上を図る	よび実践力を高める授業づくり			
	ア 生徒同士が学び合う協働学習づくり	ア・生徒同士が学びあう協働学習を通じて書く力・話す力・発表する力を育成する	ア ・ 授業アンケート「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」の肯定的回答率 90%以上 [93.2%]	
	イ 基礎学力の定着・知識および技能の習得	イ・ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を多く取り入れて、基礎学力の定着を図るとともに活用する力を育成する。		
	ウ 技能競技会やコンクール等の参加	ウ・技能競技会やコンクール等に参加することで、実践的な技術を身につけて実社会で生き抜く力を養うとともに自己肯定感を育む。	ウ ・ 技能競技会やコンクール等の大会に年1回以上出場 [年2回]	
	(3) 学びの継続に向け OSAKA CYCLE の取組みを進め、学びへのアクセスを保證するための学習環境を整える。			
	ア 学びの継続に関して組織的な取組みの方向性の提示	ア ・ コーディネーター等を中心とした教育相談委員会で現状の分析と課題把握、今後の方向性と課題解決対策の取組みを推進する。	ア ・ 教育相談委員会を年6回実施 [年6回]	
	イ 生徒の状況や保護者から情報を収集、検討	イ ・ 生徒の状況や保護者のからの情報を収集し、アセスメントに基づいた支援対策を、ケース会議を行い検討する。	イ ・ 学校教育自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」「学校は保護者の相談に適切に応じくれる」の肯定的回答率 90%以上 [100%、100%]	
	ウ 学びへのアクセスの支援	ウ ・ SC と連携・協働し支援の成果検証と改善点の検討を行い、生徒の学習環境を構成する。	ウ ・ 学校教育自己診断「授業がわかりやすく、楽しい」の肯定的回答率 85%以上 [89.7%]	

府立都島工業高等学校 定時制の課程

3 研修活動の活性化による教員の指導力、授業力の向上	ア 教員の指導力の向上とともに、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点に立った授業	ア・教員間の授業見学期間を設定することで、意見交換やアドバイスなどによって各教員の指導力の向上とともに、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点に立った授業づくりを推進するために、研究授業や授業見学を実施する。	ア・他の授業の授業見学期間を前後期各1回ずつ(各2週間程度)設定 [前後期各1回、各2週間] ・他教科の授業や実習も含めて、各教員が年2回以上授業見学を行い、その割合を50%以上[2回 54.2%]	
	イ ICT の導入等を踏まえた授業改善	イ・各教科において、授業アンケートを取り入れたPDCAサイクルによるICT等の導入等を踏まえた授業改善を推進する。	イ・授業アンケート:「先生は、よりよい授業をしようとする意欲や熱意を持っている」の肯定的回答率90%以上[93.2%]	
	ウ 教員の指導力向上に向けた校内研修会の充実	ウ・教員の指導力向上に向けたICTに関わる校内研修会の充実を図る。	ウ・外部講師による年1回以上の校内研修会を開催[年3回]	
	エ 日本語指導を必要とする生徒を支援、指導	エ・各担当、各種委員会等が連携し、日本語指導を必要とする生徒を支援、指導する研修を実施する。	エ・日本語指導の各種研修会を、関連部署と連携して行い、教員に対するアンケートで研修の満足度を70%以上[新規]	
	オ 情報リテラシー向上に向けた教職員研修を実施	オ・校内の各種ICT機器の維持活用を図るとともに、情報リテラシー向上に向けた教職員研修を実施する。	オ・ICT機器を活用した研究授業を年1回以上行う。[2回] ・情報リテラシー向上に向けた教職員研修を年1回以上実施[1回]	
	カ 支援を要する生徒に関する共通理解	カ・支援を要する生徒の教育的ニーズの把握と情報共有を図る。また、特別支援教育に対する教職員の理解を深める。	カ・教育相談委員会を年6回以上開催し、生徒の情報交換を密にする ・生徒情報連絡会を年2回開催[2回]	
4 働き方改革の推進	ア 教職員の健康増進維持、勤務時間の適正化	ア・教職員の健康増進・維持のために、時間外勤務の縮減及び意識改革を図り、併せてストレスの軽減を図る。	ア・健康増進・維持のために教員向け研修会を年1回以上実施する。[0回] ・ストレスチェック職場分析結果において、総合健康リスクの項目で90以下を維持する。[84]	
	イ 校務運営の効率化	イ・グループウェア等活用した校務運営の効率化を図り、週に一度の全校一斉定時退庁日を実施する。	イ・会議資料のデジタル保存化や会議、連絡会等に占めるオンライン会議の実施時間割合(50%)[60%]	